

## 大学生生活を有意義に

歯学部附属病院長

新谷 英章

一九九七年、歯学部に入學した諸君に、心からお祝いの言葉を贈りたい。諸君は、必ず将来歯学の分野で活躍しようと考え、歯学部を選んだことと思う。諸君はこれまでの受験競争から解き放され、真に自らを問うことができるのが、これから始まる大学生活である。

最初の一年間は、統合移転の完了した東広島キャンパスで教養的教育を履修することになる。これは自分の好みや専攻する分野に限定されない広い視野をもち、その基盤の上に将来の医療人としての自分独自のものを高く掲げるためには必要なことである。広く、基礎的自然科学ならびに人文社会学の学問分野をしっかりと勉強してもらいたい。今年度から教養ゼミが始まるので、諸君は四月から電キャンパスの歯学部に出向き、基礎、臨床の各三講座の担当教官と積極的に研究、学習活動に参加し、知的興味を育む機会と、学生と教官とのコミュニケーションを促進する場を提供されることになる。大学での学習の入り口としての教育効果が期待されている。

歯科医療は高齢化社会を迎える二十



一世紀では、口腔領域における疾病内容も多様性を帯び、歯学教育に対しても質的改革が強く求められている。医療技術だけでなく、高い教養と人間性の優れた歯科医師が求められることになり、さらに生涯にわたる研修も必須となってくる。

これから六年間の大学生活での一日は、諸君にとってかけがえのない青春であり、この時期、勉学はもちろん、スポーツ、趣味を満喫することは、いつかどこかで役に立つことであろう。また、その中で生涯を通じての友人を見つけ出すことも大変重要であると思う。

二度とない学生時代が夢多き日々であることを祈り、諸君の健闘を期待してやまない。  
(しんたに・ひであき)



学生実習風景

## 新入学おめでとうございます

歯学部学生 駒林 卓

センター試験、二次試験を見事に突破され、今春より私たちといっしょに学ぶことができることをとてもうれしく思う。地元広島のみならず、全国各地からやってきた人も多いと思う。



入学に際し、私たちはみなさんに「感謝」という言葉を贈りたいと思う。なぜなら、私自身が日々先生方、友人、知人、家族に対して「感謝」を絶やしてはならないと考えるからである。

先生方への感謝というのは、自分が大学で有意義な日々を快く過ごす面からも、欠かすことができない。先生方への感謝が薄らぐと日々の講義・実習が空虚に感じられ、留年したり、退学したりしている人が多いようである。

友人、知人は、学生生活をエンジョイする上で大切である。初めのうちは、コンパを紹介し合ったり、旅行に行ったりということが中心になると思うが、学年が進むにつれてテスト勉強や実習のパートナーとして付き合いが深まるものである。

最後に、家族への感謝である。たとえば、バイトと奨学金で自活できても、家族の協力なしには、大学生活は成立しないだろう。特に一人暮らしを始めた人は、日々の生活で親の有難さや苦勞が、より理解できるであろう。

みなさんが、健康で充実した楽しい大学生活を送れることを祈りつつ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。  
(こまばやし・すぐる)

工学部

自覚を

工学部長 松村昌信

このたび、希望に溢れて入学してきた本学の新入生に申し上げます。今、どの大学でも、国際化や学際化が重要なテーマになっている。これらは、国境や学部・学問領域の壁を乗り越えて、相互に仲良く交流を行うことである。今日では、鎖国によって一国だけが孤立しては生きていけない。また、一つの狭い学問分野の中に閉じ籠もって他の分野との交流を断っているのは、健全な学問の進展は望めない。従って、大学の国際化、学際化は、当然力強く推進すべき重要なテーマである。

大学における国際化、学際化はどのようなに行うべきであろうか。一般に認識されているように、国際化は皆が英語を喋ることもないし、海外旅行に行くことでもない。国際化はまず自国の特徴を知り、他国の特徴を知り、その差異を認識して、それを理解することから始まる。また、大学は教官と学生から成るものであるから、教官だけが行うものではない。学生が参加しなければ、大学の国際化、学際化にならない。そこで新入生諸君には、まず大學生としての自覚、広島大学の学生としての自覚、そして各学部の学生としての自覚をもってもらいたい。



私は高校生と大學生との違いは、大學生が学問の前では自立した個という点で、教官と対等な立場にあることだと思う。「先生は正解を知っている。学生はそれを教えてもらって覚える」と思っている者に、大學生の資格はない。先生がある問題の解き方を説明したら、その方法とは別の方法でその問題を解いてみようと考えてのが大學生である。

広島大学の特徴は「教育」という骨格をもった総合大学にある、と私は思う。総合大学とは単に多くの学部があるばかりではなく、それらが有機的に結合されていなければならない。広島大学の十一学部を結び付けているのは「教育」であると私は思う。抽象的分かりにくいかもしれないが、教養的教育を受けている間に自ずから分かってくるものと期待している。

最後に、最も大切な大學生としての自覚を持つてほしい。言い換えれば、工学とは何か、理学とは何か、文学とは何か、ということを考えてほしい。ただし、「大學生とは何か」を含めて、先生に正解を求めてはいけません。

(まつむら・まさのぶ)

凌駕

工学部学生 中山裕之

新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんはそれぞれに夢や希望を抱いて、明るい未来を目指して入学されたことだと思う。いずれにせよ、何の苦労もなしに、努力もなしに、達成され得る夢や希望はない。特に大學生生活では、人を頼っていたのでは、何かを待つていたのでは、何も入ってこない。自分から積極的に貪欲に求めていかなければ、平凡な大學生生活になってしまうだろうし、何の目標も得られないまま時だけが過ぎて行くことであろう。まず、何か熱中できるものを見つけたい。そして一つ一つの目標を「凌駕」していつてほしい。



最後に、総科での明るく楽しい日々を過ごしている間に、恋人をつくってほしい。家にこもるのはやめてくれ。工学部にいくと、特に男性諸君、女性はありません。男の花園であるぞ。皆さんの未来に幸多きことをお望みますが、現実はその甘くはない。

(なかやま・ひろゆき)

入学おめでとう

工学部学生 北島こずえ

入学おめでとう。これからの四年間で、たくさん勉強して、たくさん遊んで、やりたいことをたくさん見つけることができると思う。

中学、高校と六年間を女子校で過ごした私は、入学当初、男の子ばかりの環境にへどもどしていた。スムーズなコミュニケーションがとれず、他の同級生から見れば、クラスメイトとの間に溝を掘りながら生活しているように思えたかもしれない。そんな毎日だったから、今のように授業以外の活動をしたり、先輩や先生方とギクシャク音をたてずに話したりできるようになるま



の間、数々の悩みや困難にぶつかった。当たり前だけど、人間関係って勉強より難しい。そう思ったし、今もそう思う。

大学時代は、いろんな自分を知り、直し、伸ばしていく時期かな、と私は思う。興味のあることに手を出しまくって、自分が選んだ「今」という世界のポテンシャルをめいっぱい引き出せば、とても楽しい毎日になると思う。勉強だけでない盛りだくさんな大學生生活が送れるといいね。

(きたじま・こずえ)